

平成23年度東大阪市豊かな環境創造基金活用事業
生ゴミ堆肥化による有機野菜栽培および果樹栽培等

東大阪市立藤戸小学校PTA

1 事業内容

- ・主として給食の調理時に発生する生ゴミを活用し、EM菌による堆肥作り
- ・作った堆肥をつかい、野菜や果樹を栽培する
- ・栽培した野菜を使用して、実際に調理する。その際、地域や外国の料理を調べ、国際理解および食育の学習につなげる
- ・地域から寄付していただいた20坪ほどの土地が、学校から離れた場所にあったこと、水が供給できないこと等の理由により有効利用できず、雑草が生い茂っていた。その土地を果樹園にかえる（野菜等の栽培は困難、日当たりもあまりよくない）。



2 , 効果として

- ・寄贈された土地から草を取り除いたり、耕したりする作業をPTAと子どもたちが一緒に行うことで、栽培する厳しさと楽しさを共有できた。
- ・生ゴミも工夫すれば堆肥として有効活用できることがわかり、食に対する関心を高めることができた。
- ・自分たちが作った堆肥を使った栽培に取り組むことで、食物の栽培や収穫への興味が持てた。
- ・自分たちが作った野菜を食べる、という目的を持って地域や世界の食を調べることで、地域理解、国際理解につながる学習が行えた。
- ・3年生の取り組みとして位置づけスタートしたが、4年生の「地産地消」についての学習、5年生の食文化理解の取り組み、園芸委員会によるミカン栽培と、他学年にまたがる取り組みに広がり、学校全体の食育学習につながっていった。



3 , 今後の課題

- ・堆肥作りも始まったばかりで、まだ効果ははっきりしない。継続して土作りを進めることが必要と思われる。
- ・みかん園の収穫は来年度になるため、今後の継続した取り組みが必要となる。
- ・スタートが夏以降となったため、本格的な野菜栽培ができていない。これも継続した取り組みが必要になる。
- ・「地産地消」と「外国からの安い野菜の大量輸入」という課題が見えてきた。総合学習の中で、さらに取り組みを深めていきたい。
- ・PTAとしての取り組みが限定的なものとなった。今後、「スクールボランティア」を募集しお手伝いをお願いすることで、PTAとしての活動であるという位置づけをもっと明確にしたい。

